

地域福祉とは

地域福祉とは、地域で生活するすべての人が、お互いを尊重し、支え合い、助け合って安心して暮らせるような地域社会を築いていくことです。

地域福祉が必要な理由

心配な人を見守り支援が必要な時には、関係機関につないだり、災害時の迅速な助け合いなど、地域内での取り組みが進むことで、住民皆さんの笑顔につながります。

また、地域の課題は複雑・多様化しており、地域と行政等が協働で取り組みを進めることが重要です。

地域住民が安心して暮らしていくためには、お互いを支え合い、助け合う地域の力が必要です。

地域福祉計画とは

地域福祉計画とは、社会福祉法第107条の規定に基づき、市区町村が地域の課題や問題を明らかにし、その解決に向けた取り組みを進め、「地域共生社会」の実現を目指す行政の計画です。

平成30年度から各種福祉計画の最上位に位置付けられています。

地域福祉活動計画とは

地域福祉活動計画とは、社会福祉協議会が中心になって市民、福祉関係者等と共に策定する民間の計画です。

この計画は地域住民による地域のための計画であり、社会福祉協議会のための計画でもありませんし、コミュニティ協議会だけのための計画でもありません。

地域福祉計画が理念計画であるとすれば、地域福祉活動計画は行動計画であるといえます。

いきいき西区ささえあいプランとは

地域福祉計画と地域福祉活動計画は一体的に作成することが望ましいとされており，西区ではこれらの一体的な総称として「いきいき西区ささえあいプラン」と称しています。

いきいき西区ささえあいプランの策定や進捗管理は，「いきいき西区ささえあいプラン推進委員会」で行っています。

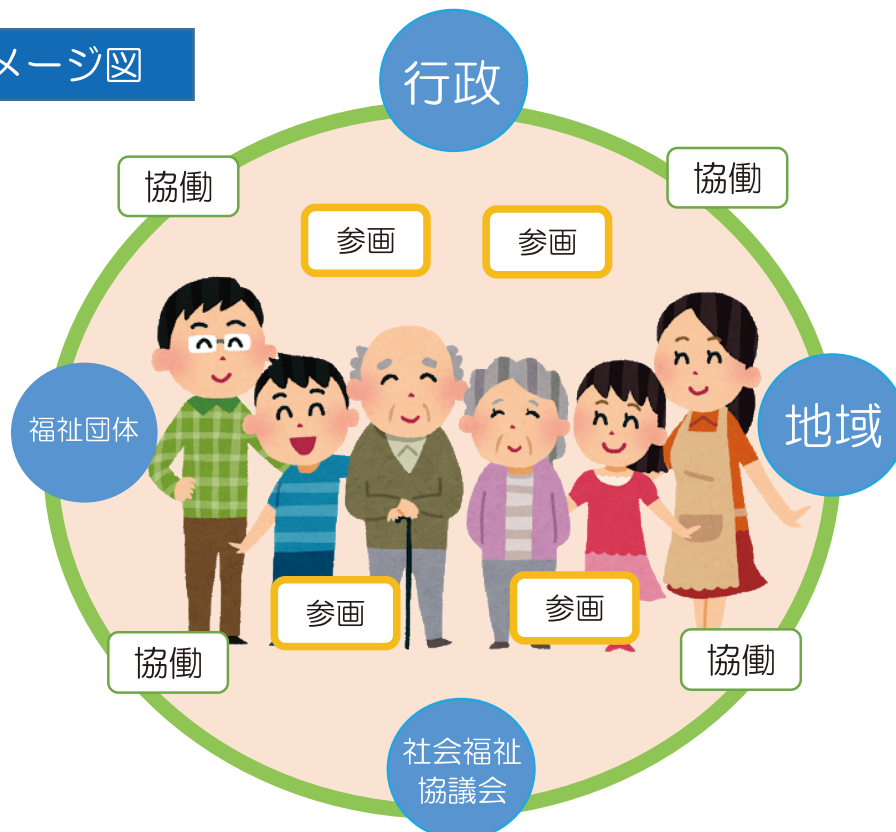
計画期間について

第1次計画	第2次計画	第3次計画
H21～H26年度 (2009～2014年度)	H27～R2年度 (2015～2020年度)	R3～R8年度 (2021～2026年度)

誰もが安心して暮らせる社会を目指して

お互いに助け合い、支え合う住みよい西区を目指し、地域、福祉団体、区、社会福祉協議会などが協働で取り組んでいくことが必要です。

イメージ図



西区の基本理念・基本目標

基本理念

にっこりと みんなで創る 支えあい
しあわせつなぐ 地域の輪
くらし健やか いきいきと

基本目標

基本目標1

誰もが認めあい
助けあえる
まちづくり

【視点】支え合い，共生社会

基本目標2

信頼でつながり
連携できる
まちづくり

【視点】団体・組織間のつながり，
連携，協働

基本目標3

一人ひとりが
自分らしく参加できる
まちづくり

【視点】人材育成，地域参加

基本目標4

健やかに
安心して暮らせる
まちづくり

【視点】健康，災害時の支援

地域福祉活動計画（地域別計画）の策定について

地域福祉活動計画（地域別計画）策定のため、西区の15地区（小学校区・中学校区）ごとに地区懇談会を開催しました。

地区代表のいきいき西区ささえあいプラン推進委員やコミュニティ協議会のみなさんを中心に、各地区で2～4回の話し合いが行われました。

アンケートを取る方法、コアメンバーで話し合いを重ねる方法など様々な工夫で準備をし、懇談会で地域の「良いところ」や「課題」を出し合い、それを受けての「目標」「具体的な取り組み」を決めて策定されました。



各地域が計画した地区別計画については、P5～P33に掲載しています。

内野小学校区

人口 9,137人(3,786世帯)
65歳以上 2,667人(29.2%)
14歳以下 1,107人(12.1%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 江戸時代の最大級の工事といわれた人工の川「新川」と西川の立体交差があり、新川の河口には新川漁港がある。
- ◇2 新川掘削後、発展してきた地域であるとともに、酒造業が盛んである。
- ◇3 新潟大学があるため、ほかの地域に比べて若い人が多い。



この地区の 良いところ



○自治会によって以下の通り、先駆的な取り組みや支え合いの意識がみられる。

- ・町内イベントを通じた見守りや友愛訪問など見守り活動を実施している。
- ・高齢者等で支援を受ける側であっても、困りごとの内容によっては支援する側になろうとする人がいる。
- ・自治会ごとに工夫して、地域住民が交流し顔の見える関係づくりができる活動や取り組みが行われている。
- ・ゴミ出し支援、除雪など助け合い活動が行われている自治会が複数ある。
- ・町内の取り組みに目を向けてくれる人が増えてきた。

この地区の 課題



○自治会によっては以下のような取り組めていない課題がある。

- ・高齢者の一人暮らしが増加しており、その結果、施設へ入所する人が年々増加し、空き家が増加している。
- ・近所付き合いが希薄になっている為、つながりが必要な人が孤立化している。
- ・「手助けできる人」と「手助けしてもらいたい人」が繋がっていない。
- ・子どもたちの登下校の見守りサポーターが不足している。その親世代は忙しくて、見守りサポーターなど地域活動に参加できていない。
- ・助けを必要とする高齢者の把握ができていない。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【地域の茶の間】

各自治会や有志によって地域住民の交流の場、居場所である「地域の茶の間」が開催されている。

【訪問活動】

地域の高齢者等を対象に安否確認や孤立感の解消のために、自治会による友愛訪問活動や民生委員による見守り訪問活動が実施されている。

【健康体操・介護予防体操】

まちづくりセンター、公民館、各自治会館等で、健康体操や介護予防体操の集いが定期的に行われている。

【生活支援活動】

各自治会でゴミ出し支援事業など、住民主体の生活支援活動が実施されている。

【児童支援活動】

小学生の登下校時の見守り活動や、まちづくり協議会による「夏休み子ども映画劇場」・子育て支援事業「虹の部屋」が実施されている。

【顔の見える関係づくり】

内野まつり、内野盆踊り大会、敬老会、文化祭、芸能祭など自治会やまちづくり協議会の行事・イベントを通じて顔の見える関係づくりが行われている。

目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

みんなで作ろう！ 思いやりと支え合いのまち うちの

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 顔の見える関係づくり～住民同士の絆の強化～

- 自治会行事や地域イベントを通じて、ふれあいや関係づくりの場をさらに設ける
- 住民誰もがあいさつを交わせるしくみをつくる
- 自治会内の班単位ごとの交流の機会をつくる
- 誰でも参加できる地域の茶の間・サロン・趣味の集いの拡充
- うちのDEアートなどものづくりで世代間交流を楽しめる場をつくる

② 話し合い・助け合いによる地域力アップ

- 支援を必要とする人を孤立させないように地域全体で見守る
- 友愛訪問など見守り活動の継続・拡大
- 避難行動要支援者の支援体制をつくる
- 買い物・雪かき・ゴミ出し支援・お助け隊など生活支援の体制をつくる

③ 地域活動の担い手の発掘・育成

- 年代や体力に応じた地域貢献活動の人材発掘と育成
- 広報・連絡のデジタル化を図り、どの世代とも情報共有できるしくみをつくる
- 世代交代のルール化や役員研修制度など担い手を発掘・育成できるしくみをつくる
- 小学生の登下校時の見守り活動の継続・充実
- 青年会や消防団など若い世代の地域活動が活性化するしくみをつくる
- 小学生や中学生からの地域に対するアイデアが活かされていないので、地域と学校が一緒に、実現に向けて取り組んでいく



西内野小学校区

人口 9,137人(3,786世帯)
65歳以上 2,667人(29.2%)
14歳以下 1,107人(12.1%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 古くからの住宅地とJR内野西が丘駅周辺の新興住宅地が共存している。
- ◇2 農業も盛んだが、サラリーマンや公務員など住民の職業は多岐にわたる。
- ◇3 市立幼稚園や県立高校、近隣に新潟大学があり文教的な地域である。
- ◇4 病院・スーパーが多く、交通の便が良い。
- ◇5 自然も豊かで米、スイカ、メロン、長ネギ、大根などの栽培が盛んである。



この地区の 良いところ



- 各種ボランティア活動の参加率が高く、活動を通じて顔がわかる関係ができています。
- 学校と地域コミュニティとの連携ができており、地域の方の学校行事の参加率が高い。
- 西内野小学校の児童数が増えている。
- 年代に応じた健康に対する取り組みが盛んである。
- 地域で子育てをするという意識が高い。
- 地域住民の結びつきが強い。

この地区の 課題



- 地域住民の高齢化。(高齢者支援・空き家対策)
- 地域づくりに若い世代をはじめ新しい人の関わりが不足している。
- 諸活動の周知方法に対する形骸化。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【子育て支援事業】

こばとの会 毎週木曜日西コミセンで未就園児の親子の居場所づくり

【自主防災訓練】

小学校区全体の自治会・町内会で1年に1度実施。

【盆おどり大会】

7月末、西内野の中心部で開催。PTAや自治会が中心となって夜店も催し、毎年地域住民が楽しみにしている行事。

【高齢者支援活動】

高齢者の顔の見える関係づくり支援、友愛訪問活動(民生委員、自治会・町内会)

【もちつき大会】

11月末、西内野小学校体育館で行う。道具も材料も地元という手作りのもちつき大会。世代間交流、地域交流、伝統文化の継承などを目的として実施。

【小・中学校での活発なボランティア活動】

西内野小学校は、平成26年度 優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣賞受賞。今では、年間のべ3000人～5000人のセーフティスタッフ、学校支援ボランティア活動がある。内野中学校も、学習支援ボランティアがのべ2000人を超える。

【住民による生活支援】

ゴミ出し支援、雪かき、草刈り、お助け隊、支援隊

【顔の見える関係づくり】

地域の茶の間、西内野食堂(地域食堂)、盆踊り練習会、星空観測会、子どもふれあいスクール事業 地引き網・宝さがし大会、子どもみこし



目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

世代を超えて支えあう 安心・住みよい地域づくり ～ ひとりひとりが輝く西内野 ～

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 誰もが困った時に助けあえる地域づくり

- ・高齢者指導員の育成（のっぺ、みそづくり、囲碁など）
- ・地域マップの作成（民生委員・コミ協・自治会協働）→現状の可視化と情報共有
- ・見守り活動の強化・・・友愛訪問・自治会内での見守り活動→民生委員だけでなく、地域の多くの方から見守り活動をしてもらう
- ・住民による生活支援の活発化（ゴミ出し支援、雪かき、草刈り、お助け隊、支援隊など）
- ・認知症をはじめ、困った感のある人の見守り活動を広げる
- ・地域・学校・保護者で課題の共有
- ・各施設・イベントのバリアフリーの確認（ハード・ソフト両面）

② 地域活動に参加しやすい場づくり

- ・誰もがつながれる場づくり、機会づくり
- ・地域活動、みんなで参加・みんなで運営（やれる人が、やれるときに、やれることを）
- ・西内野地域のホームページ開設（情報のプラットホーム化）
各種イベント情報、イベント時のバリアフリー情報
ツイッターなどSNSと連動した情報提供 空地、空き家の情報

③ 新しい人材発掘・地域リーダーづくり

- ・イベント、コミ協行事、自治会、PTAなど地域内のあらゆる活動での人材情報の共有（人材発掘について常に意識し、意識づける場づくり）
- ・各活動に対する在任期間の条件づけ（後継者を育成するしくみづくり）
- ・各地域リーダーによるSNSグループの形成及び情報共有のしくみづくり



中野小屋中学校区

人口 4,215人(1,693世帯)
65歳以上 1,454人(34.5%)
14歳以下 387人(9.2%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 西川の兩岸、南北7kmに渡り、18の集落がある。
- ◇2 中野小屋村、河西村、新通村（一部）の3村が明治34年に合併し、中野小屋村として発足。昭和36年に新潟市と合併。
- ◇3 ほぼ稲作単作の田園地帯で、その多くが兼業農家である。
- ◇4 国道116号線曾和インターに近く、車でのアクセスが良い。



この地区の 良いところ



- 子どもたちが元気で素直であり、地域で大事にしている。
- 人とのつながりが良い地域である。
- 幼児から高齢者まで誰もが参加し交流する「親子三代ふれあい会」を地域一丸となって開催している。

この地区の 課題



- 子どもや世帯数が少なく、何をやるにも人数が少ない。
- 農業者も地域活動も後継者がいない。（ボランティアが高齢化し、若い人の活動が少ない。）
- 高齢者（特に閉じこもりがちの人）の交流する場や機会が少ない。
- 「親子三代ふれあい会」と「瑞穂祭」の参加人数が減ってきている。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【親子三代ふれあい会】

毎年10月に、75歳以上の住民を招待して、幼児、小・中学生、大人、高齢者が中野小屋中学校に一堂に集まり交流している。

【瑞穂祭】

毎年10月に新潟みらい農協中野小屋支店を会場として、小・中学生と住民を対象とした文化祭を開催（中学校と同時開催）。餅つきコーナー、ポップコーン・綿あめの無料コーナー、画・書・写真の展示、農機の展示など、地域をあげての文化祭。

【小中学生と地域のつながり】

○学校ボランティア

小・中学校の災害訓練に地域住民が協力して、非常食づくり、試食などの体験をしている。

また、農作業体験（田植え、稲刈り、野菜づくり）も連携して実施。

収穫物は地域の福祉施設に寄付したり、直売所で販売。

○宿題を仕上げる会

笠木小・小瀬小の児童を対象とした冬休み・夏休みに中野小屋公民館（中野小屋連絡所）を会場として実施。学習だけでなく、地域の住民や中学生・高校生、大学生、民生委員・児童委員、

福祉施設職員、各校の地域教育コーディネーターにも手伝ってもらい世代間交流の時間も設けている。

【友愛訪問】

地域の高齢者等を対象に安否確認や孤立感の解消のために、民生委員による見守り訪問活動を実施。

目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

世代をこえて つながるまち 中野小屋

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 親子三代ふれあい会や瑞穂祭の活性化

- ・中学生など若い世代と一緒に話し合い、新しい意見を取り入れる
- ・開催時期や開催時間の見直しなど各世代が負担なく楽しめる内容の検討・実施
- ・宿題を仕上げる会と連動して世代間交流を促進させる
- ・子ども向けのプログラムを幅広くつくる

② 地域の魅力を発信し、「住みたい、住み続けたい」地域に

- ・若い世代と一緒に話し合い、一緒に取り組んでいく
- ・小中学生が地域を知る活動などと連動し、中野小屋のいいところを発信する
- ・学校間の交流など、他地域の小中学生などに体験的に中野小屋の魅力を知ってもらう
- ・住宅地や店舗の誘致の検討

③ 後継者・担い手を発掘し、全ての世代が主体的に参加できる地域に

- ・同年代及び多世代でコミュニケーションがとれる交流の場づくり
- ・インターネットを活用した情報提供やつながりづくり
- ・全ての世代が、農作業・縄ない・賽の神・樽砵など伝統行事やイベントに主体的に参加できるしくみをつくる
- ・コミ協・自治会など地域活動団体の運営方法・人材発掘及び地域課題について意見交換できる場をつくる



④ 高齢者がつながりを持ちながら、いきいきと過ごせる地域づくり

- ・地域交流・健康増進・介護予防を目的とした居場所づくりを自治会・町内会単位で企画・実施
- ・中学校区全域の住民を対象とした広域的な集まりを新潟あそか苑、明和荘、中野小屋公民館（中野小屋連絡所）を活用し企画・実施
- ・集まりの場に来れない方を意識的に対象にするなど友愛訪問・見守り訪問の強化・充実
- ・多世代に対する福祉・介護教室の開催等、地域全体で高齢者、障がい者、児童等を見守り、支える意識を醸成するしくみをつくる



赤塚中学校区

人口 5,908人(2,189世帯)
65歳以上 1,712人(29.0%)
14歳以下 804人(13.6%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 ラムサール条約登録湿地「佐潟」がある。
- ◇2 北国街道の旧家で明治天皇がご休憩された「中原邸」がある。
- ◇3 ブロック塀のないニュータウンと古くからのまちが共存している。
- ◇4 多様な観光資源がある。



この地区の 良いところ



- 新たに顔の見える関係づくりが出来ている。
(朝市、ワークショップ、きりんカフェ)
- 地域課題の解決について若い人も交えて話し合っている地域がある。
- 子ども達がたくさんいる地域がある。
- 公民館活動や運動会が活発な地域がある。

この地区の 課題



- 近所付き合いが希薄な地域がある。
- 高齢化が顕著な地域がある。
- 世代をまたいだ交流が少ない。
- 地域活動への住民の参加が少なく、一部の人が頑張っている。
- 地域課題解決についての情報共有や話し合う場づくりがさらに必要。
- 地域の魅力の活用や発信がさらに必要。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【環境美化活動】

佐潟の潟普請、国道402号線・海岸保安林クリーン作戦、みずき野の公園・歩道の保全美化活動など各自治会・各団体が住民の協力により環境美化保全に努めている。

【地域のまつり】

佐潟まつりのほか、みずき野、四ツ郷屋、木山、中権寺などの各地域で様々な規模のまつりを開催。

(関係団体が積極的に参加)

【防災訓練】

自治会や消防団主導で、住民参加の訓練が行われている。

【友愛訪問】

民生委員によって安否確認や孤立感の解消のため、高齢者の見守り訪問活動が行われている。

【顔の見える関係づくり・地域の居場所づくり】

- ・敬老会、運動会、文化祭、新年会等、各自治会で開催されている。
- ・各節休み、地域の茶の間、体操の会、趣味の会など、地域の実情に応じた定期的な集まりが開催されている。



目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

お互いの地域が支え合い、ひとつになろう！

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 地域それぞれの特色を生かし、地域間の交流を活発化する

- ・子どもたちへの祭りなど伝統行事の継承方法の検討、実施
（楽しくできるような方法を検討）
- ・各自治会などでやっているイベントに中学校区内の他自治会の人にも積極的に周知し、互いに参加してもらい地域間の交流を促進する
- ・様々なイベントや活動を通じて学校と地域の連携強化を図る
- ・佐潟など地域の自然保全活動を中学校区住民みんなで実施し、活動を通じて地域のことを話し合う
- ・赤塚特産の農作物や伝統行事、自然などを融合したイベントを若い世代と一緒に検討、実施
- ・佐潟などのイベントに様々な団体や人から主体的に参加してもらう工夫の検討、実施
（企画から関わってもらう）

② 多世代の顔の見える関係づくり

- ・子どもが集まれる環境づくり
（昔の遊びなどを活用して多世代交流及び地域間交流の要素も加味する）
- ・地域の茶の間の開催拡大、及び、多種多様な居場所づくりの検討、実施
- ・祭りなど既存の行事の開催方法を工夫し、より多世代の交流ができるよう実施する
- ・どの世代でも楽しめるようなイベントの復活、創設の検討、実施
（例：住民運動会、祭りなど）

③ 話し合い・助け合いによる地域づくり

- ・地域内の各種団体の育成・連携・支援の検討、実施
（コミ協、自治会、民生委員児童委員協議会、婦人会・老人会・青年部・子供会など自治会内各組織）
- ・自治会及びコミ協の広報を工夫し、中学校区内のイベント情報や地域の課題など、住民が共有できるよう検討、実施
- ・通学路の環境改善や見守り体制について検討、実施
- ・コミ協単位で、地域情報の共有や課題解決に向けた話し合いを定期的実施する
（世代を超えて様々な人が参加できるやり方の検討）
- ・顔の見える関係づくりのイベントや活動を通じて、支援の必要な方を把握し、地域でできる支援方法を検討、実施

坂井輪中学校区

人口 24,900人(10,865世帯)
65歳以上 7,278人(29.2%)
14歳以下 3,295人(13.2%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 西区役所、寺尾駅、新潟大学前駅がある西区の中心部であり、住宅地と農地が共存している。
- ◇2 坂井東小学校、新通小学校、新通つばさ小学校の3つの小学校区からなる、西区で人口が最多のコミュニティ協議会のエリアである。
- ◇3 既存住宅地の高齢化と新興住宅地の人口増加が進んでいる。
- ◇4 散歩を楽しむなど西川が地域住民の憩いの場となっている。
- ◇5 地域の声や関係機関の協働により、エリア内の駅にエレベーターが設置され誰でも使いやすい駅となっている。



この地区の 良いところ



- 地域の人の協力により、地域の中で子どもたちが育っている。
- 長年各団体が熱心に高齢者支援や子育て支援、緑化活動などの地域活動に取り組んでいる。
- 地域住民が集う場、地域の茶の間が多い。
- 女性支援隊が、女性視点での地域活動を通して地域を結び、女性パワーを引き出す取り組みを続けている。

この地区の 課題



- 地域活動やご近所との付き合いに関心が薄く、困ったことがあっても支援を受けたがらない人がいる。
- 子どもから高齢者まで誰もが参加できる取り組みが少ない。
- 3小学校区があり地域の実情が異なるので、地域活動や防災への取り組みで住んでいるところによって差がある。
- 若い世代の地域活動への参画が少なく、今の取り組みを次の世代へ引き継いでいけるのか心配。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【地域の茶の間や趣味の会】

各自治会や有志によって、地域の居場所である「地域の茶の間」が数多く開催されている。地域の茶の間以外でも、趣味の会や体操の会など、人と人が集い、つながりあう場が各地域で実施されている。

【ふれあい収集事業（ゴミ出し支援）】

ゴミ出しに困る人のゴミ出し支援を、地域ボランティアや障がい者施設の協力により、まちづくり協議会主体で実施。

【地域の防災・防犯活動】

ジュニアレスキューなど、子どもたちを巻き込んだ防災・防犯活動が行われている。

【あいさつ運動】

地域と学校がしっかりと連携し、あいさつ運動とともに取り組んでいる。

【子どもの見守り活動】

セーフティスタッフをはじめとした子どもの見守り活動に、多くの人に参加。

【友愛訪問活動】

地域のボランティアによる、高齢者の安否確認や孤立感の解消のための友愛訪問を実施。

【環境美化活動】

歩道や公園の清掃や整備・緑化活動が、子どもたちを巻き込んで各団体、各地域で行われている。

【モリス子ども食堂】

小学校の長期休暇に合わせて有志による子ども食堂が開催され、多くの子どもたちが集いお腹いっぱいごはんを食べている。

【三者合同研修】

自治会長、民生委員、友愛訪問員の三者が集い、研修を受けたり意見交換したりする場をつくっている。



目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

みんなが主役 つながれ・つながるまち さかい輪

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 地域に関心を持ってもらい、つながりを強める

- ・広報紙やSNSなど情報発信を工夫し、子どもも含めたあらゆる世代に地域活動をPRして、地域とつながるきっかけづくりを行う
- ・「地域食堂」や健康教室・趣味の講座など、誰もが参加できる場づくりを行う
- ・高齢者を見守り支えるための友愛訪問活動や、緊急情報キット等の配布を通じて、地域内のコミュニケーションをはかる

② 3世代が交流し、支え合う地域づくり

- ・三世代がふれあい交流できる会を実施し、「地域の大家族」のような関係づくりを行う
- ・子ども、障がい者、高齢者等誰もが参加でき楽しいスポーツイベントや防災訓練を実施
- ・高齢者や認知症の方を地域皆で支える仕組みづくりと、地域全体への啓発活動を行う
- ・子どもが地域の一員であるという意識啓発を行うとともに、地域に貢献できるように学校とともに取り組みを進める
(夏休み子ども友愛訪問体験、4校クリーン作戦、古紙回収、敬老会お祝い品の配達、あいさつ運動など)

③ 坂井輪中学校区全体の地域の力を高める

- ・まちづくり協議会、各小学校区エリア、個々の自治会、それぞれの課題を認識し解決に向けて取り組む
- ・自治会の情報交換会や助け合いのしくみづくりの勉強会を行い、自治会活動の活性化を図る
- ・小学校区対抗健康づくり行事などで、地域の結束力を高める
- ・大学生との交流により、地域行事の力になってもらうとともに、情報発信を上げる



坂井輪小・小新中学校

人口 24,900人(10,865世帯)
65歳以上 7,278人(29.2%)
14歳以下 3,295人(13.2%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 越後線以北の比較的古い住宅地区、住宅造成期が少しずつ異なる小針から坂井輪にかけての県道と西川に挟まれた2つの地区、もともとの農村地域と振興地域が合わさった西川以南の地区、それぞれに歴史と地形が異なる4つの地区で形成されている。
- ◇2 遥かな昔から物流水路として栄えた西川と大堀沿いに位置している。西川沿いの遊歩道は桜の名所として、住民憩いの場になっている。
- ◇3 大型商業地域が複数集まっている。

この地区の 良いところ



- 子どもたちが礼儀正しく、自立した活発な活動ができている。
- 坂井輪小学校、小新中学校とまち協の関係性が良く、密な連携ができている。
- まち協、自治会、民生委員の情報共有の場がある。
- まち協の部会長を中心に活動を進めている。

この地区の 課題



- 高齢者等、交通の不便さを感じている人がいる。(買い物・通院等)
- 自治会長の任期が短かったり、民生委員の引き継ぎの難しさなどから、一貫性をもった方針の維持が困難な場合がある。
- 自治会の規模の差が大きいため、できている取り組みの差も大きい。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【地域の茶の間】

まち協や自治会で、地区包括支援センターなどの支援を得て「よりどころ」と「らっくり」などの活動を毎月開催

【健康寿命延伸、交流事業】 「短歌教室」、「(ワンコイン)居酒屋かっちゃん」を毎月開催

【青少年育成事業】

小新中学校生徒会と「地域もりあげ隊あいさつ運動」を展開。その他、西川沿いで「こいのぼり」をあげる事業を毎年実施

【文化・スポーツ事業】

西川沿いの「観桜会」や「健康ウォーキング」、小学校での「ふれあいもちつき大会」を留学生を招きながら毎年実施。その他、町おこしの「スタンプラリー」を実施

【環境美化事業】

西区一斉クリーンデーに合わせた一斉清掃活動や大堀幹線へのプランターによる「花苗の植栽」を実施
西川沿いや地域の公園の環境整備も精力的に実施

【交通安全推進事業】

西警察署や区の支援を得て、地区の3ヶ所で「交通安全推進活動」を年4回を目標に実施
学童通学の見守り活動も活発に実施

【安心・安全事業】

大勢いる防災士の協力を得て、避難所運営講習や防災訓練を毎年、地区内の3ヶ所の避難所ごとに実施
自治会単位での防災訓練も盛ん。新小学生への防災ブザー寄贈や防犯カメラの設置

【福祉活動】

地区社会福祉協議会との共催で、「バスツアー」や「世代間交流」事業を開催。地域の「お助け隊活動」展開

【構成団体との交流事業】

自治会長や民生委員との連携を深めるため情報交換会を、年数回実施

【広報事業】 まち協の広報紙「私たちのまちづくり」年2回発行

目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

まちづくり協議会、自治会、民生委員児童委員協議会、小・中学校が連携し、安全安心で生きがいのあるまちづくりを目指します！

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 関係団体・民間施設が連携し、健康寿命延伸・交流事業の輪を広げよう

- ・「地域の茶の間」「短歌教室」「健康ウォーキング」などで、住民同士のつながりづくりや健康づくりをすすめる
- ・地域内の福祉施設とともに、高齢者の「買い物支援」について検討する
- ・「居酒屋かっちゃん」「自治会長情報交換会」「民生委員情報交換会」で自治会・民生委員をはじめ地域活動に取り組む人の顔の見える関係づくりを行う
- ・「地区社会福祉協議会」と共催し、地域全体がとまれる大型イベントを企画する

② 児童や留学生と連携を図り、世代間・国際交流を広げよう

- ・「地域盛り上げ隊」「もちつき」「スタンプラリー」を起点に、地域ふれあい交流をさらに深める

③ 防災・防犯活動や交通安全推進活動で、安心なまちづくりを実現しよう

- ・地域の防災士と連携し、実効ある減災、防災のまちづくりを進める
- ・自治会、見守り隊、警察署との連携を図り、児童が安心して通学できるまちにしていく
- ・関係機関の指導を受けながら、犯罪のないまちづくりを目指す



東青山小学校区

人口 9,809人(4,536世帯)
65歳以上 2,473人(25.2%)
14歳以下 1,162人(11.8%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 JR青山駅、BRT発着の青山バス停、大型ショッピングセンター、大小飲食店などがあり、青山公園、平島公園など、公園が多く閑静な住宅地。
- ◇2 マンションなど、集合住宅の居住者が多く全住民数の約40%を占めている。



この地区の 良いところ



- 小学校と自治会とのつながりが密接で、各種行事のボランティアの参加者が多い。
- 子育て支援事業の活動を通じて、子育てや教育に関する意識が高い。
- 自治会活動、コミ協活動に対する認知度が高く、住民の参加も多く、世代間交流の場となっている。
- 地域の見守り活動が継続している。

この地区の 課題



- 公民館や自治会館、老人憩の家がなく、世代間交流や高齢者の生きがいに難点あり。
- 独居の高齢者が年々増加しており、災害時の助け合いが心配。
- 各地域で行事に参加する人が年々減少している。
- 空き家が年々増加しており、活用が課題。
- アパート住民の自治会行事への参加率が低い。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【子育て支援事業】

- ・東青山すくすく広場の活動を通じて、未就園児とその親子が集える場を定期的開催。

【自主防災訓練】

- ・コミ協主催合同避難訓練や各自治会での避難訓練の実施。

【地域ふれあい事業】

- ・東青山小学校ふれあい祭りに出店し、綿あめ・ポップコーンや水ヨーヨー釣りなどに参加。
- ・東青山小学校もちつき大会を開催し、大人も子どもも大いに楽しんでいる。

【小学校と中学校でのボランティア活動】

- ・田植えや稲刈りの指導、学校の側溝清掃、畑での野菜の育て方の指導、防災授業に地域住民がボランティアとして参加。
- ・その他ボランティア活動に多数の地域住民が参加。

【見守り活動】

- ・セーフティスタッフによる毎日通学路の交通安全見守り、通学路の防犯パトロール。

【高齢者生きがい事業】

- ・地域の高齢者が講師になり、絵手紙教室と楽画季の会(水彩画)、囲碁・将棋等が開催されている。

目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

明るく、安心、安全に暮らせるまち「東青山小学校区」

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 誰もが認め合い助け合うまちづくり

- ・各自治会のお茶の間サロンの充実
- ・民生委員児童委員と自治会との連携強化
- ・コミ協だよりを年2回定期号を発行し、年2、3回臨時号を発行して、地域の行事などを知らせる
- ・ふれあい祭り、もちつき大会の実施

② 信頼でつながり、連携できるまちづくり

- ・自治会長連絡会議の開催（年2回）
- ・合同避難訓練、防犯パトロールの実施
- ・核となる人材の育成のため、講習会、講演会の実施
- ・地域安全マップを活用し、児童の通学路の点検、避難行動要支援者の誘導、防災訓練の実施

③ 一人ひとりが自分らしく参加できるまちづくり

- ・高齢者を中心とした健康教室の実施
- ・健康ウォーキングの実施
- ・地域における環境美化活動の推進
- ・ラジオ体操などの充実
- ・花いっぱい運動の推進

④ 健やかに安心して暮らせるまちづくり

- ・友達や趣味を活かした生きがいづくりの場所を提供
- ・コミ協、自治会、民生委員児童委員協議会による見守りや助け合い活動の推進
- ・西区役所、社会福祉協議会、地域包括支援センターとも連携し、健康や福祉に関する諸行事に参加する



五十嵐小学校区

人口 15,518人(7,183世帯)
65歳以上 4,784人(30.8%)
14歳以下 1,715人(11.1%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 公共交通機関や買い物等、生活の利便性がよい。
- ◇2 教育機関が多く、文教地区として充実している。
- ◇3 住宅地ながら、海や保安林、寺尾中央公園など、自然が身近で、恵まれている。



この地区の 良いところ



- コミ協と自治会との連携と情報の共有ができています。
- 高齢者への声掛け、見守り活動に積極的に取り組んでいる。
- 健康寿命延伸への関心が高く、活動も活発化している。
- 子どもたちの健全育成に熱心である。
- 公德心の高い住民が多い。

この地区の 課題



- ご近所とのつながりが希薄になっている。
- 高齢化・孤立・一部の若い世代の無関心の現状がある。
- 「自分たちのまち」と実感や愛着の持てるまちづくり活動や、イベントの参加者が固定化している。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【地域の居場所】

地域の茶の間の開催。健康測定の開催や、娯楽を楽しんでいる。

【訪問活動】

友愛訪問、見守り活動を行っている。

【健康体操】

ラジオ体操や、介護予防体操を実施している。

【あいさつ運動・見守り活動】

通勤、通学者へ声掛けを行い、安全の為や、より良い関係づくりを推進している。

【子どもや親子の居場所】

安全安心で、楽しく過ごせる居場所づくりをしている。

【防災訓練】

避難場所の確認等、防災意識を高めている。

【環境の整備】

憩いの場になる、各地の公園の整備を行っている。

【情報交換、広報】

定期的に会議を開催し、広報誌を発行している。



目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

明るく健康的で安心安全なみんなの住みたいまち

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 私たちが支えあい、助け合うまち

- ・「地域の茶の間」の充実に引き続き力を入れる
- ・高齢者 地域と子どもが交流できる場を考えるなど、住民の実情や特性に応じた活動を考えていく
- ・行事を通じて若い世代に声をかけ、自治会活動の次世代を担うリーダーの育成に取り組む

② 安心・安全に暮らせるまち

- ・「友愛訪問」や「ゴミ出し支援」の活動がさらに充実するよう検討する
- ・地域の福祉施設や民生委員とも連携できる点を考えていく
- ・もっとも身近で、災害時にも大きな役割を持つ班や組の維持・活性化を考えていく
- ・集合住宅では、階段電灯管理などにも気を使い、死角がないようにする

③ 防犯・防災・交通安全に取り組むまち

- ・自治会単独やコミ協主催の複数自治会による 防災訓練に力を入れる
- ・消防士や警察官から実際の事例を聞き、住民の啓発に役立てる
- ・「あいさつ運動」が防犯や防災にも役立つ見地から、運動を進める
- ・児童の登下校へ見守り活動、通学路の安全確保に力を入れる

④ 情報を発信・共有し、つながりあうまち

- ・基本情報である「回覧」が、読みやすくなるよう工夫する
- ・「自治会掲示板」が、情報発信の有効な手段となるよう見直しをする
- ・情報が一方通行になっていないか検証し、班長や組長の協力も得て、住民の意向をくみとる取り組みを進める



真砂小学校区

人口 9,776人(4,665世帯)
65歳以上 3,450人(35.3%)
14歳以下 1,133人(11.6%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 松林や海岸など自然環境が豊かで、地域住民の憩いの場となっている。
- ◇2 海岸に面している砂丘地で、坂が多く、新潟地震以降に造成された地域のため、道幅が狭く袋小路も多い。
- ◇3 海水浴場があり、夏には多くの人でにぎわい「夕日コンサート」も開催される。



この地区の 良いところ



- 民生委員や自治会役員が地域を支えるために積極的に活動している。
- 短大、専門学校が地域内にあり、病院や福祉施設も多い。
- 経験豊富な人材が多く在住している。
- ごみ出しの手伝いやおすそわけ、皆で雪かきするなど近隣の助け合いや協力の精神がある。

この地区の 課題



- 住民の高齢化、一人暮らしの人が増えている。
- 地域の人材と活躍する機会が結びついていない。
- 地域活動について、一部の人に負担が集中している。
- 地域の魅力や地域活動に無関心な人も多々いる。
- 自治会などでの活動は盛んだが、情報共有や広域連携が不十分である。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【地域の茶の間】

各自治会や有志によって地域の居場所である「地域の茶の間」が開催されている。空き家や空き店舗を活用した茶の間もある。

【訪問活動】

地域の高齢者を対象に、安否確認や孤立感の解消のために友愛訪問活動をしている。真砂地域では全ての地域で取り組みが行われている。

【ゴミ出し支援事業】

各自治会で地域特性を生かして実施されている。

【子どもの見守り】

セーフティスタッフや青色防犯パトロールにより、登下校時の子どもの見守りが行われている。

【自主防災訓練】

小学校区全体の自治会で1年に1度実施。

【保安林整備】

保安林（真砂の森）維持のためのボランティア団体が活発に活動している。

【もちつき大会】

五十嵐中学校体育館において毎年12月に開催され、大人から子どもまでが楽しめる世代間交流事業。各自治会で開催しているところもある。

【地域イベント】

まつりやバーベキュー、クリスマス会など各自治会単位で積極的に行われている。

【コミュニティ協議会の活動】

- 真砂文化祭：真砂小学校・明倫短期大学と一緒に住民の作品展や芸能発表等が行われている。
- いきいき元気塾：高齢者の健康増進の講座を開催している。
- 早起き野球 ○飛砂対策 ○文化講演会

目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

ひとりのために みんなのために 支えあい 安心して暮らせる地域づくり

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 近隣のつながりを強化し、困ったときに頼れる地域づくり

- 地域の茶の間や趣味の会などの気軽に参加できる集いの場をつくり、ご近所のつながりを強める
- 民生委員や友愛訪問員等の見守りを推進する
- 自治会ごとに見守りが必要な人の把握を進める
- 認知症サポーターを育成し、認知症の方やその家族が安心して暮らせる地域を目指す

② みんなが参画できる地域づくり

- 誰もが楽しく参加でき、交流できる地域活動を行う
- 多くの人に地域活動に幅広く参画してもらう工夫を行う
- 学生の若い力や、地域住民の経験や得意なことを生かせる仕組みをつくる

③ みんなで暮らしを支える情報の共有とネットワークづくり

- コミ協と自治会との相互間の連帯と協調を今以上に強化する
- 学校、福祉施設、病院等関係機関との連携を強化する
- 真砂コミ協広報誌等の発行回数を増やす
- SNSを活用し、地域活動を広く発信するしくみをつくる
- 学生の協力を得て、デジタルでのコミュニケーションを地域で学ぶ機会をつくる



青山小学校区

人口 7,628人(3,654世帯)
65歳以上 2,533人(33.2%)
14歳以下 802人(10.5%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 南東に西大通り、北西は松林に続く日本海、東には関屋分水と自然の景観に恵まれている。
- ◇2 新潟地震後に、砂丘地が開発され建設された住宅が多く高齢化が進んでいる一方、若い世帯の転入も増えている。
- ◇3 有明福祉タウンという福祉ゾーンがある。



この地区の 良いところ



- コミ協、自治会、民生委員のネットワークができており、情報交換が活発に行われている。
- セーフティスタッフや子育てサロン、学校ボランティア等、地域で子どもを見守り支えるという意識が高い。
- 有明福祉タウンを拠点とした地域福祉活動が盛んである。
- 子育て世帯が暮らしやすい地域で、近年若い世代の転入が増えている。

この地区の 課題



- 坂や狭い小路が多く、買物やゴミ出し、災害時の避難に困る高齢者が多くいる。
- 地域活動の参加者が固定化し、特に若い世代の地域活動への参加が少なくなっており、若い人同士のつながりも少なくなっている。
- 担い手の高齢化、なり手不足。
- 地域包括支援センターや社会福祉協議会との連携がさらに必要。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【地域の茶の間】

各自治会や有志によって、地域の居場所である「地域の茶の間」が開催されている。

【体操の場】

有明福祉会館での「らっくり」、青山コミュニティハウスでの「いきいき健康体操」等、定期的な体操の場が開催され、健康増進に努めている。

【子育てサロン】

青山コミュニティハウスで定期的開催され、子育て中の親子がゆったりと楽しく過ごせる場づくりをしている。地域のボランティアが活躍し、子育て中の悩みを相談できる場にもなっている。

【子ども食堂】

「なごみ食堂」、「みんなの食堂」 2つの子ども食堂が、地域住民の協力で開催されている。

【見守り訪問活動】

地域の高齢者を対象に、安否確認や孤立感の解消のために訪問活動をしている。

【学校ボランティア】

- ・子どもふれあいスクール…水曜の放課後や土曜日の午前に、体育館や特別教室を利用して子どもの様子を見守ったり、一緒に活動している。
- ・校庭整備…青少年育成協議会、PTA主催で、運動会前に多くの地域住民の参加により校庭の清掃整備を行っている。

【有明ふれあいまつり】

有明福祉タウンでお祭りを開催。お祭りステージ、露店、健康福祉コーナー、フリーマーケットなどのコーナーを開設し、多くの地域住民の参加で賑わっている。

【関屋分水路の花文字植栽】

関屋分水路堤防に花文字の植栽を行い、終了後は豚汁を食べるなど住民同士の親睦を深めている。

目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

人と人がつながり 子どもも大人も元気な地域

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 誰もが安心して暮らせる地域づくり

- ・地域の茶の間や体操の会など、住民同士の集いの場、健康づくりの場を継続する
- ・困ったときに相談しあえるよう、見守り活動や地域行事等で、住民同士の普段からのつながりづくりを行う
- ・高齢者等のゴミ出しなど生活の困りごとについて、地域に合った支援のあり方を検討し、実施する
- ・認知症の方やその家族が、自分らしく穏やかに暮らせるような地域づくりを進めるため、意識啓発や検討の場づくりを行う
- ・地域包括支援センターや社会福祉協議会、区役所等との連携を強め、地域福祉活動と専門機関との連携体制を構築する

② 地域活動に関わる人を増やし、活動のすそ野を広げる

- ・学校や地域活動の発信の方法を工夫し、まずは興味を持ち参加してもらう人を増やす
- ・多世代で顔を見て話し合う場を作り、地域活動に様々な世代の声を取り入れる
- ・楽しいことを中高年が率先して行い、参加の輪を広げていく
- ・「ながら見守り」など、様々な人が気軽に地域活動の担い手として参加できるしくみを強化する

③ 安心・安全に暮らせる地域づくり

- ・地域の防災訓練を継続実施
- ・下校時や幹線道路以外の小路なども見守りできるよう、子どもの見守り活動を強化する



小針小学校区

人口 11,506人(4,969世帯)
65歳以上 3,058人(26.6%)
14歳以下 1,612人(14.0%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 越後線沿線の小針、青山を中心に開発された地域である。公共交通機関の便およびアクセスが良い。
- ◇2 主に住宅地域が多く、マンションや大型商業施設も増加している。
- ◇3 少子高齢化に伴い高齢者世帯が増加している。
- ◇4 西新潟市民会館を中心として地域活動が行われている。



この地区の 良いところ



- 自発的に声を掛け合って助け合うご近所のつながりがある。
- 空き家を活用して、集会所にする等の取り組みが進んでいる。
- 地域とともに健康づくりに取り組む意識の高い総合病院があり、地域との連携が取れている。
- 防災の取り組みが盛んである。
- 大型商業施設が、地域の防災活動等に理解・協力がある。
- 継続した子どもの見守り活動が行われている。

この地区の 課題



- 困ってもSOSを出せない世帯が多い。
- 自治会の行事が減少し、人と人とのコミュニケーションが取りにくくなった。
- 空き家が多くなって、防犯、管理、環境面での悪影響が懸念される。
- 若い世代の転入者が多く、若い力があるが、地域活動には活かし切れていない。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【地域の茶の間】

各自治会や有志によって、地域の居場所である「地域の茶の間」が開催されている。

【地域の助け合い活動】

除雪やゴミ出しをはじめ地域の困りごとをご近所の人助け合う「助け合い活動」がひろがっている。

【ふれあいスクール】

「こばりっこランド」で地域のボランティアが活躍。

【訪問活動】

地域の見守りが必要な高齢者を対象に、安否確認や孤立感の解消のために訪問活動を実施。

【防災活動】

小針小学校との合同防災訓練を実施。

【子どもの見守り活動】

子どもたちが安心して登下校できるよう、地域ボランティアによる見守り活動を実施。

目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

みんなで育てよう生きる力～このまちに住んでよかった小針～

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 未来につなぐ地域のネットワークづくり

- ・小針地域のイベントや取り組みをインターネットで発信する
- ・地域のイベントに企画の段階から若い世代に参画してもらう
- ・世代を超えたイベントで顔の見える関係づくりや生きがいづくりを行う
- ・自治会と民生委員が連携し、情報共有できる機会をつくる
- ・自治会長が他の地域の取り組みを把握し、自治会に周知する

② すこやかな子育てを支えるまちづくり

- ・子育て世帯が集い活動できる場の提供と子育てサークルへの支援を行う
- ・ニーズに沿った子ども向けの支援を増やす
- ・大学生や地域の若者を引き込むなど、ふれあいスクール（こぼりっこランド）等のボランティアを増やす

③ 笑顔で助けあえるまちづくり

- ・健康寿命を延ばす取り組みを進める（健診の呼びかけ、フレイル予防の推進、新潟医療センターと連携した取り組み）
- ・支援を必要とする人の実情を把握し、助け合いができる組織づくりへチャレンジする
- ・地域の茶の間など高齢者の居場所の必要性を各自治会に広げる

④ 安心安全に暮らせるまちづくり

- ・小針小学校との合同防災訓練等を継続していく
- ・指定避難所の運営体制を構築し訓練を実施していく
- ・災害時に支援行動を要する住民の支援方法などについて各自治会と連携を行う
- ・セーフティスタッフや「ながら見守り」の充実を図る



黒埼南小学校区

人口 3,678人(1,305世帯)
65歳以上 1,324人(36.0%)
14歳以下 326人(8.9%)

★★地域の特色★★

- ◇1 「黒埼茶豆」などの生産が盛んであり農地が多く、自然が豊かである。
- ◇2 上越新幹線、北陸自動車道が通っており、黒埼スマート・Cの立地がある。さらに、国道8号線(南区)から中ノロ川大橋、緑と森の運動公園、黒埼南小学校を經由する茶豆ふれあいラインの幹線道路が貫通している。
- ◇3 緒立遺跡や埋蔵文化センターといった歴史的な要所、みどり森の運動公園や宮の森・木場城公園、緒立公園などの公園がある。
- ◇4 自治会毎に、集会所や公民館があるところが多い。



この地区の 良いところ



- 各地域に、子どもがいきいきと遊ぶことができる公園がある。
- 高齢者でも元気であり、農業を現役でされる方が多い。隣近所同士での繋がりが強いので、自然に挨拶や声かけができています。
- 若い年代から高齢者まで、同年代のグループが重層的に存在し、各年代毎の繋がりがあがる。
- 地域の伝統芸能を始めとする行事を通じて、助け合う関係性ができています。
- トラクターを所有する農家が多く、周辺地域の除雪ができる協力体制がある。

この地区の 課題



- 一人暮らしの高齢者が増えており、外出手段の問題が深刻になっている。通院や買い物だけでなく、地域の集まりや行事への参加にも影響がある。外出手段の問題は、若い世代の通勤や通学へも影響が出ている。
- 自治会や老人会、地域行事についても役員のなり手が不足している。
- 運動会や祭りのような地域で続けてきた行事の参加者が減っている。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【地域の茶の間】

- ・黒埼南お茶の間広場 毎年冬期に開催……校区内の地域住民を対象に、演奏会や講演会を開催
- ・楽々会(木場川前) 第2・4火曜日

【子育てサロン・児童見守り】

- ・まめっこクラブ …………… 民生委員児童委員・木場交番等を含む学校見守り隊を中心とした地域全体での見守り活動
- ・黒埼南わくわく夏休み縁日……小学生・未就学児・保護者を対象に、楽しい夏休みの思い出作りを目的に開催
- ・黒埼南まちづくりセンター思い出作品更新事業

【自治会/連合自治会活動】

- ・防災訓練、ふれあい運動会
- ・賽の神、節分などの伝統行事
- ・農業まつり
- ・芸能音楽祭、奉納芸能

【訪問活動】

- ・民生委員児童委員による、安否確認や孤立感の解消のための友愛訪問活動
- ・一人暮らしの高齢者等への見守り電話(北場)

【健康づくり活動】

- ・黒埼南輪投げ大会 (黒埼南ふれあい協議会)
- ・黒埼南フロアカーリング大会 (黒埼南ふれあい協議会)
- ・黒埼地区健康づくり講座 (4ふれあい協議会合同事業)

【環境美化活動】

- ・茶豆ふれあいライン緑化推進事業……緑化及び草刈り作業を行い、地域の潤いを促進
- ・西区一斉クリーン作戦



目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

住民が支えあい明るく安心して暮らせる地域づくり

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

- 一人暮らしでも社会との繋がりを維持することができるよう、地域での見守りや声かけ活動の推進
- 高齢になっても健康を維持できるよう、地域の茶の間などで介護予防についての取り組みを推進
- 買い物や通院等の困り事を解決するため、地元の飲食店や企業等とも連携する支え合い活動の推進
- 生活上の心配事を本人や家族が気軽に相談出来るよう、社協や包括等専門機関との繋がりの推進
- 登下校児童の見守りや公園管理など、子どもが安全に地域で暮らせるような環境づくりの推進

独りを一人に直しました

② 多世代での地域づくりを推進するための担い手の育成

- ふれあい協議会や自治会の活動へ理解と協力を得るため、役員の負担感を改善するような体制を検討
- 若い人が地域行事や自治会の取り組みに参入し易くなるような魅力ある取り組みの検討
- 自治会活動やふれあい協議会での活動の中で、地域のリーダーを育成する

③ 地域で行われている行事・取り組みの活性化

- 芸能音楽祭や奉納芸能、賽の神や節分などの伝統行事や防災訓練、運動会といった多世代の地域住民が参加する地域行事を継続し、世代間の交流を図る
- 保育園や小学校とも関わることで、若い世代からも意見を取り入れながら地域活動の活性化を推進
- 黒崎南地域の魅力を地域内外に発信していくためのPRや周知の方法を検討



大野小学校区

人口 8,790人(3,640世帯)
65歳以上 2,927人(33.3%)
14歳以下 1,017人(11.6%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 中ノロ川の河口に位置し、歴史的に河川交通の要衝として発展してきた地域である。
- ◇2 国道8号線が通っているほか、高速バスの停留所(鳥原停留所)があり交通網が整備されている。
- ◇3 旧黒崎町の中心部であり、公共施設や事業所が立地。
- ◇4 農業に適した土壌であり、枝豆をはじめ畑作や稲作が盛んである。



この地区の 良いところ



- まち部と農村部の融合がうまくできている。
- ふれあい協議会内の情報共有の場ができつつある。
- 各地にお地藏さんがあり、地域で守られている。
- 盆踊りや賽の神などの伝統文化が残っている。

この地区の 課題



- 大野町の商店の減少や高齢化とともに、買い物など外出に困る地域住民が増えている。
- 伝統行事の継続が困難になってきている。
- 若い人をはじめ、住民の地域活動に対する関心が薄い。
- 地域住民同士での交流が希薄になっている。
- ふれあい協議会内の自治会・各種団体の連携や役割分担が不十分である。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【地域の茶の間】

- [週1回] 水曜茶話会、ひまわりの会、野ばらの会、いきいき木曜会
- [月2回] お達者クラブ、金巻なかよし会、木曜会
- [月1回] まごころ黒崎お茶の間、新田町いきいきサロン、地域の茶の間イキイキサロン八区寿会

【子育てサロン・児童見守り】

- ・にいがたっ子☆スペースくるさき(週1回)
- ・子ども安全見守り隊…大野小学校の通学路にて登下校の見守りを実施

【自治会/連合自治会活動】

- ・餅つき大会
- ・納涼祭
- ・盆踊り大会
- ・賽の神
- ・防災訓練、避難訓練など

【訪問活動】

- ・民生委員児童委員による、安否確認や孤立感の解消のための友愛訪問

【環境美化活動】

- ・黒崎須上ランニングロードの清掃
- ・大野小学校通学路の清掃

【健康づくり活動】

- ・卓球・ソフトバレーを楽しもう！(大野小学校スポーツ振興会共催)
- ・カーリンコンを楽しもう！(大野小学校スポーツ振興会共催)
- ・ふれあい健康ウォーク
- ・黒崎地区健康づくり講座 (4ふれあい協議会合同事業)

【その他】

- ・大野甚句保存会活動…大野小学校の児童が中心となり取り組んでいる。
“大野甚句”の保存活動を支援
- ・施設見学会



目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

みんなが明るく楽しく安心して生活できるまちづくり

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 誰もが安心して暮らし続けることが出来る支え合いのしくみづくり

- 空き家・空き店舗の増加について、関係機関や活動団体との情報共有を行う場を作る
- 地域の茶の間などの集まれる居場所を増やすとともに、運営スタッフなど担い手の育成をする
- 買い物不自由になっている住民が増えていることに対し、企業などと連携して取り組む

② 子どもからお年寄りまで多世代で取り組む地域活動

- 子どもや若年層にも役割をもって地域活動に参加してもらうことで、地域への関心を高める
- 地域内外へと周知・PRを行うため、SNSなどを活用して取り組みの情報発信方法を工夫する
- 地域の活性化を目的に活動している団体と連携することで、活動の幅を広げる

③ 地域にある住民団体の体制整備とネットワークづくり

- 地域で行っている活動や団体を整理・見える化することにより、それぞれの役割を連携して取り組む
- ふれあい協議会の各部会などでの取り組みを情報共有し、ふれあい協議会全体で円滑な活動を行う
- 地域内の活動団体と連携し、地域全体の情報共有を行う
- 他地域との連携を強化し情報共有をしていくことで、地域内の取り組みに活かしていく



立仏小学校区

人口 6,577人(2,763世帯)
65歳以上 1,643人(25.0%)
14歳以下 839人(12.8%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 高速道路やバイパスのインターチェンジが整備され、交通の要所に立地している。
- ◇2 大規模店舗や総合病院等が作られ、生活の利便性が良い。
- ◇3 新しい住宅団地も形成され、高齢化率は25%と低いが、昔からある団地は高齢化が進んできている。
- ◇4 学校周辺は、地域住民の協力により静かな環境で自然が多くのかである。



この地区の 良いところ



- やさしさ、思いやり、話せばわかってもらえる人の好きがある。
- 昔からの行事・風習を引き継いでいける自治会連合でのまとまりがある。
- 区役所や地域包括支援センターなど行政や福祉専門機関とのつながりが強い。

この地区の 課題



- 車がないと、買い物や通院などに困る高齢者の世帯が多くなっている。
- 価値観の相違により人と人とのつながりが希薄になっている傾向がある。
- 子どもがのびのび遊べる環境が少なくなっている。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【地域の茶の間】

- ・うちの実家『てつ家』H21から実施、月2回、介護・障害・年齢等に関係なくくつろぐ場所として提供・遠方の方も参加有。
- ・「いきいきサロンたちぼけ」第2・4水曜日開催
- ・「いきいきサロン絆」第2金曜日開催 寺地中自治会
- ・「寺中サロン」第3又は第4土曜日 男性中心・寺地中自治会

【子育てサロン】

- ・立仏ふなっこ 親子の遊び場・交流の場提供、毎週月曜日、月4回実施（毎年年間45回前後実施）
母親同士の情報交換・悩み相談等に役立っている。
- ・立仏小ワンダーランド 毎週月・木・土曜日課外学習として開催。平日PM3:00-4:20・土曜9:00-11:20

【地域の自治会活動】

- ・公園清掃 各公園毎管理自治会が異なるが、自治会独自定期的に実施し、習慣化となっている。
各戸の安否情報や顔合わせ等情報交換の場ともなっている。
- ・餅つき大会等 各自治会において、毎年12月に開催され、大人から子どもまでが楽しめる世代間交流

【訪問活動】

- ・民生委員児童委員及び地域老人会において敬老者を対象に、安否確認や孤立感の解消のために訪問活動を実施

【ふれあい協議会の活動】

- ・立仏小において防災意識向上に向け、年1回防災訓練の実施、3年毎に地区全体で大規模な訓練の実施
- ・生活環境部会において 定期的な街灯等の点巡回点検
- ・交通安全指導員における、通学路の安全点検、登下校時の指導実施
- ・さわやか健康体操・いきいき賢幸教室・どこでも健康教室による運動習慣の定着化・健康寿命の延伸を勧めている。



幸せ感じる思いやりのあるまちづくり

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① みんなが健康！声かけあって健康づくり

- ・地域の茶の間で、体操などをして介護予防に努める
- ・健康教室等 高齢者を中心とした、気軽に参加できる体操の場を増やす
- ・遊歩道を利用したウォーキングで、若者世代にも健康づくりの大切さをPR
- ・各種会議で健康診断受診をよびかける

② 住民参加によるつながりづくり

- ・自治会行事・活動に積極的に住民参加により近隣のコミュニケーションを密に人間関係を構築しておく
- ・地域活動や公園清掃による、地域住民の「絆」形成が住みよい街づくりとなり、災害時等にも役立つ
- ・他の自治会との交流を推進する
- ・地域活動への女性の参加を推進する
- ・幅広い年代層が参加できる餅つき等行事企画・実施、参加呼び掛け
- ・経験や知恵を持つ人を活動につなげる

③ 地域全体で暮らしを支えあい安心できる生活

- ・あいさつ運動を地域全体で推進
- ・立佝小ワンダーランド支援
- ・立佝ふなっこ活動の支援
- ・友愛訪問を含む高齢者等見守りの支援
- ・ゴミ出し、買物に困る高齢者への支援を検討していく
- ・地域・関係機関と連携した孤食に対する取り組みの推進

④ 誰でもSOSが発信できる地域づくり

- ・悩みのある人がSOSを伝えられる環境づくり（人・場所）
- ・地域からの相談にのり、専門機関につなぐ体制づくり



山田小学校区

人口 7,472人(3,160世帯)
65歳以上 1,559人(20.9%)
14歳以下 1,087人(14.5%)
※R2.3.31現在(14歳以下はR2.5.1現在)

★★地域の特色★★

- ◇1 国道8号線沿いには、大型の道の駅などの大型小売店舗や、企業等が集まっており、また、美術館などの文化施設やボウリング場といった娯楽施設がある。
- ◇2 交通の利便性が高い地域であることから、黒埼I・Cを拠点に運送業が盛んである。
- ◇3 越後七不思議の1つ「焼鮎伝説」が伝わる地区である。
- ◇4 公園や街路樹をはじめ、緑が多く自然が豊かな地域である。



この地区の 良いところ



- 自治会同士の連携がとれており、ふれあい協議会の活動へも協力的である。
- 地域の子どもの挨拶が良い。
- 地域の美化活動が積極的に行われており、地域住民も協力的に参加している。
- 交通、教育、医療などの生活環境が良く、転入者が増加している。

この地区の 課題



- 高齢化が進む中で、心配な世帯が増えており、空き家も増加している。
- 高齢者世帯、子育て世代等の若年層、アパート・借家に住まわれている方等、住民同士の交流の場が少なく、孤立感がある。
- 児童が登下校する際の交通安全や、地域内の継続的な美化活動が必要。

地域で行われている主な取り組み「私たちは、こんな活動をしています！」

【地域の茶の間】

- ・お茶の間サロン山田
- ・善久サロン
- ・柳作健友会

【子どもたちを中心とした活動】

- ・親子ものづくり大会 …… 小学校の児童と保護者が協力してものづくりを行い、ものづくりへの関心をもつきっかけにする。
- ・ふれあいチャレンジカップ大会 …… 囲碁・将棋・オセロ・ゲートボール等の協議を通じ、低学年から高学年までの児童間の交流を深める。(PTAとの共催)
- ・やまだ冬まつり …… 児童間での交流を深める。(ふれあいスクール「きらきらランド」との共催)

【見守り活動】

- ・民生委員児童委員による、高齢者の安否確認や孤立感の解消のための友愛訪問活動
- ・登下校時の子どもたちの見守り活動(交通安全推進協議会)

【自治会/連合自治会活動】

- ・各地域でのお祭り

【健康づくり活動】

- ・新春囲碁・将棋大会
- ・健康増進カラオケ発表会
- ・ふれあい健康教室
- ・黒埼地区健康づくり講座(4ふれあい協議会合同事業)

【文化活動】

- ・地域芸能保存事業 …… ふれあい協議会オリジナルの“やきふな太鼓”の伝承
- ・われら信濃川探検隊 …… 小学校4年生と地域住民と一緒に水上バスに乗って信濃川の役割や歴史を学ぶ。
- ・福祉バスで行く施設見学

【環境美化活動】

- ・歩け歩け健康ウォーク …… 健康増進と美化意識の向上を目的として実施
- ・公園と周辺クリーンデー …… 住民同士での助け合いが出来る関係づくりとして夏休み前に実施
- ・毎月公園の除草と清掃活動(公園愛護会) ・西区一斉クリーンデー



目標・目指す姿・・・こんなまちにしたい

誰もが安心して暮らせる思いやりのある地域づくり

目標を達成するために・・・具体的な取り組み

① 子どもからお年寄りまで安心して暮らすための助け合い活動

- 交流を楽しみながらも健康増進に繋がるような地域行事の開催を継続していく
- 高齢化に伴いひとり暮らしや心配な世帯が増加しているため、助け合い活動の検討をする
- 地域の子どもの安全に登下校ができるよう、見守り活動を継続していく
- 高齢者と子どもの交流をはかり、協働による地域の見守り活動などを検討する

② 地域芸能の継承・地域交流活動の活性化

- 小学生を中心に練習している“やきふな太鼓”などを地域に披露する機会をつくり、地域芸能の伝承を行う
- 子育て世代が孤立せず同世代の繋がりを保つことが出来るよう、交流の場を検討する
- アパートや借家に暮らしていても地域との繋がりが出来るよう、交流しやすい地域活動を検討する

③ 地域全体で取り組むきれいで安全な地域づくり

- 遊歩道、公園などの草取りや清掃活動では、地域住民同士の交流も考慮した開催を続けていく
- 自治会単位で取り組んでいる美化活動をふれあい協議会で把握・調整できるような体制整備を検討

